

- ① 研究推進委員会を中心に、全校研究計画の作成・研究実践の成果の集約・推進のための基礎的事項や文献研究にあたる。
- ② 教科部会等を中心とした研究を推進するために教科研究日の確保と充実をはかる。
- ③ 4つの観点から各教科・道徳・特活について授業を中心に実践研究をすすめる。
- ④ 「学習訓練」「小集団学習」「教育機器の活用」等を、授業の中に有効に位置づける。
- ⑤ 1単位時間45分の授業の特質、生徒活動の時間30分の運用について研究授業を中心に実践。
- ⑥ 年間一人1回の研究授業を実施する。
- ⑦ 全校研究会を定例化し、毎月1回実施する。
- ⑧ 一例研究の継続と累積

6. 研究の実践

(1) 国語科 書く活動を通して自己の生き方を考えさせる指導（生きていくところを育てる）

<仮説>指導内容を精選し、方法を工夫して文章を書く機会を多く持てば、思考が深められ、論理化され、自己の考え方が明確にされるであろう。

<実践>次のような学習の手順を理解させ、自主的な学習が進められるようにした。

- ①題名から想像したことを書く。②初発の感想を書く
- ③感想の交流と課題の決定。④作品の分析と追求
- ⑤主題と学習後の感想をまとめて書く。
- ⑥読後感想の発表から個人の変容をおさえる。

<成果>の書くことに抵抗を感じなくなり、主題にせまった内容の感想が書ける。②ものごとを多角的にとらえた感想が書ける。③読書意欲を喚起

(2) 社会科 思考力を高め、生徒ひとりひとりに発表する態度を培う指導（四つのところ）

<仮説>自主性・協力性・創造性の育成をふまえて教材の精選をし、討議および発表（表現）の場と時を授業の中に設定するとともに、興味・安心感・相互理解・実践力・計画性をひとりひとりに培う。

<実践>①視聴覚機器の利用。②班・小集団学習の活用
③課題の設定と資料活用の方法の研究実践と指導内容の焦点化。

<成果>毎時間の学習に生徒の活動が見られ、明るく、活発になった。

(3) 数学科 柔軟な思考ができ、多面的な見方のできる子どもを育てる指導（考えるところ）

<仮説>新鮮で、驚き、疑問、矛盾や対立、当惑を生じ能力に応じてアプローチできる問題を提示し、「わからせること」「考えさせること」「練習させること」を明確にし、考えさせるところでは十分に場と時間を確保し

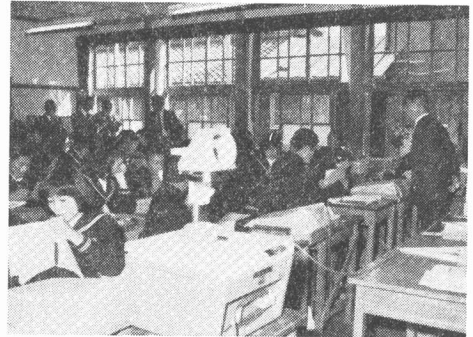
て、考えさせる。

<実践>①個人思考を出発とし、小集団思考、全体思考の中で友だちの考えをきき、とり入れ、新しい数学的アイデアを生み出させる。②1つの課題にいくつかの考え方を発見させ、それをよりよい解答へねりあげる。

③1つの問題を分析的な見方で調べ、さらに統合的にとらえさせるようにする。

<成果>①いろいろな考え方で見ることができる。

②分析、統合の見方ができるようになった。



<教育機器室での授業研究>

(4) 理科 探究学習を通して豊かな心を育てる指導（四つのところを学習過程に）

<仮説>①授業の始めに探究の段階を意識させる発問をする。②感動したこと、わかったこと、わからないことなどを口頭、又はノートに記録し発表させる。

<実践>①科学の方法の指導体系から、どの教材をとりあげるか検討し、その過程を理解させた。②探究の過程で四つのところを具体的にどう育てていくか検討した。

③予習課題を足ががりに、意欲的に授業に取り組めるノートづくりの工夫。④学習訓練をきびしく実践。

⑤思考の場を多くし、グループによる協学習の実践。

<成果>①自然事象に対する関心が高まり、科学的な考え方をする生徒が多くなった。②協力して、準備、作業、後始末まで、すばやくできるようになった。

③毎日の予習復習をよくやり、根気強く研究をつづける生徒が増えた。

(5) 音楽科 主体的に学習をすすめ、音楽の基礎力を身につけさせる指導

<実践>学習内容の精選をはかり、ソルフェージュを中心とした基礎指導をつみ重ねて生徒の能力に応じた指導計画や方法を考慮しながら授業を行なった。

<成果>自分の能力に応じ学習に取り組み、ソルフェージュを中心とした基礎の能力が身につく、歌唱や器楽において意識して取り組む生徒が多くなった。

グループ発表には、関心を持つようになった。